【設立10周年記念式典】開催のお知らせ

当工業会は平成10年2月に設立し、平成20年2月で10周年を迎えます。
設立10周年記念事業＜準備委員会＞を設置して、式典の開催に向けての企画を順次検討しています。
現在、決定した事項についてご案内をさせて頂きます。

【Ⅰ】開催日程　平成20年4月18日（金）15:00～20:30
・第一部　『定期総会』
・第二部　『設立10周年特別記念講演会』
・第三部　『設立10周年記念式典(祝賀会)』

【Ⅱ】開催場所　ホテルオークラ福岡
福岡市博多区下川端3-2　TEL092-262-1111

【Ⅲ】記念講演講師　加藤廣志様(秋田県立能代工業高校 バスケットボール部 前監督)
演題『日本一勝ち続けた男の勝利哲学』
～リーダーは燃えるような熱い情熱を持て！～
内容：夢中になることの大切さ・組織作りは人作り・後継者育成の極意

【Ⅳ】記念誌の発行　10周年記念の会報誌(全30P)を発行し全会員へ配布。

※記念式典には、工業会全会員様のご参加をお待ち致します。

＊＊ 編集後記 ＊＊

最近は成果主義のメリットよりもデメリットの方が話題になることが多いようです。いろいろと話をうかがってみると、成果＝結果ということで結果重視の行き過ぎが若手人材の育成に悪影響を及ぼし、組織力の弱体化に結びついているようです。

そんな中、組織の強さとは現役世代が次世代を担う若手を鍛え、育てることで維持されてきた。そのことを再認識した会社では成果主義のあり方を修正し始めていると聞きます。

さて今回の秋号では、日本で初めての試みとなった板金図面検定試験を取り上げました。この試験は、板金図面を読み込んで理解する力がどの程度、身についているかを評価する内容となっております。日頃、図面が読める人材を育てたいとお悩みの方にとっては大いに役立つ制度かと思います。板金技能士資格と合わせて当工業会の制度をフル活用されれば若手の人材育成の一助となること間違いなし！

今後さらに多くの方々に参加いただき、いつもは日々の仕事に忙殺され、若手の人材育成どころではない、とお悩みの会員企業の方々のお役に幾らかでも立てればと思います。皆さま、来年度も是非、ご活用下さいますよう宜しくお願いいたします。

＜田名部 淳＞
(株)田名部製作所

ホームページ開設中
ホームページアドレス　http://www.fukuoka-sma.gr.jp

ホームページ・メールアドレスを変更された会員の方は、事務局までご連絡下さい

シートメタル　ふくおか　第20号
（福岡県シートメタル工業会会報）

発行日　平成19年9月25日
発　行　福岡県シートメタル工業会
事務局　〒816-0093
福岡市博多区那珂6-25-15
(株)アマダ福岡SBU
TEL092-573-3655

〒800-0242
北九州市小倉南区津田1-1-3
(株)アマダ東九州SBU
TEL093-475-0220

今回の表紙

＝ボラボラ島＝

表紙の写真は、日本(東京)から約9,500ｋｍ離れた南太平洋上にあるフランス領ポリネシア タヒチ島から少し離れた島、ボラボラ島の写真です。「太平洋の真珠」と言われるボラボラ島は周囲をきれいな海に囲まれ、真ん中に見えるオテマヌ山とのコントラストが印象的な島です。ちなみに印象派の画家、ゴーギャンもタヒチの風景にとても感動したそうです。異国の風景でも眺めながら、皆さんも少しばかり和まれてはいかがでしょうか。

表紙担当　田名部 淳(株)田名部製作所

メタリストを応援するネットワーク情報誌　FUKUOKA

シートメタル ふくおか

2007 秋号
第20号

-CONTENTS-

〈特集〉全国初！板金図面検定試験実施される！……2
企業探訪……3
工業会のお知らせ……4･5
マイブーム……6
鉄人倶楽部……7
設立10周年記念式典開催のお知らせ
･編集後記……8

＜特集＞　全国初！板金図面検定試験実施される！

会員の皆様はご存知だとは思いますが、6月23日に全国初の板金図面検定試験（当工業会主催）が実施されました。今回の特集はこの検定試験実施に至るまでの経緯や目的、今後の展開について述べてみたいと思います。

1）経緯

平成16年5月、企画推進委員会で、それまで実施してきた「板金図面箱物展開セミナー」の内容検討中に「セミナーだけではなく本格的な検定試験があればもう一段のレベルアップにつながるのでは」と意見が出されました。その場で全員が賛成し、検討にはいりました。しかし、やり始めると何せ前例がなく、教科書や試験問題等、困難な問題がたくさんあり一時は無理なのかなと思った時期もありましたが、アマダスクールの全面的な協力と委員の熱意で3年間、18回の会議を経て今回の開催となりました。

2）目的

展開作業は現在ほとんどの会員企業が展開ソフト（AP100等）での作業が主流になっていることと思います。当然使うべきですし、コンピューター化できるものはやっていかなければ時代に取り残されるのは明らかです。しかし展開ソフトだけにたよっていると展開の基礎を知らずにコンピューターの言いなりに展開しかねません。私たちは、材料の特性や用途、図面内の記号や精度を熟知し、お客様との打ち合わせ時に板取り等を考慮して、大まかな展開図をフリーハンドで示し、提案できるような人材をたくさん育成したいと考えています。

試験風景

3）今後の展開

①今年度の検定試験の実施は、3級と2級の試験でした。1級については、2級以上の難易度の展開だけではなく、材料や製作方法の提案、コストダウン、見積り等経営感覚を取り入れた試験問題を作成し実施していきたいと考えています。

②まずいくつかの工業会に検定試験実施を呼びかけ、試験問題を再度検証、その後全国に広めて行きたいと考えています。ゆくゆくは国家試験になればと夢見ています。

第 2007-2-0010 号

合格証書

検定職種：２級板金図面検定

株式会社　三松
佐藤　繁　殿
昭和57年12月25日生

あなたは福岡県シートメタル工業会が実施する板金図面検定制度に基づき２級板金図面検定に合格したことを証します

平成19年7月20日

福岡県シートメタル工業会
会　長　　長澤　儀久

職業訓練法人アマダスクール
校　長　　天田　満明

板金図面検定合格証書▶

6月23日に筆記・実技試験が行われ合格者には7月20日付けで合格証書が交付された

＜記事担当：安永　修＞
(株)ヤスナガ

企業探訪　第20回　株式会社 ナダヨシ

福岡県シートメタル工業会の会員各社を順番に訪問し紹介させて頂くシリーズ第20回目は、株式会社 ナダヨシ 代表取締役社長 植木 次義氏にお話をお伺いしました。

Q：ご創業のきっかけをお聞かせ下さい。

A：技術を活かした仕事をしたかったので、職業訓練学校で溶接・板金・配管技術を習得しました。その後、大手厨房設備の会社で18年間勤め、厨房、特にシンク、流し台の板金加工、溶接に携わって勉強しました。そして、事情によりその会社を退職し、1981年6月に新宮に工場を借りて、一緒について来た仲間と女房の5人で創業しました。

社名は、父親の持つ運搬船の名前にちなんで、「灘吉厨房設備　有限会社」とし、文字通り船出をしました。そして2003年10月に、念願の自社工場を持つと共に社名変更し、現在の「株式会社 ナダヨシ」としました。

Q：御社の特色をお聞かせ下さい。

A：お客様がイメージしたものを形にしていくことが特色です。

そのため、様々な会社との協力体制のもと、小ロット・オーダー品・試作品を多く製造しております。主な製品は、厨房器具・医療機器・蒸留装置・手洗シンク・自動車パーツ・超音波洗浄乾燥装置などです。ＹＡＧレーザー溶接機の導入やチタン溶接技術の取得などにより、さらに幅広く板金加工を行うことが可能になりました。

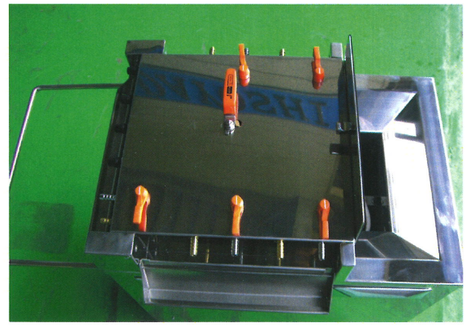
Q：今後の展望や夢をお聞かせ下さい。

A：新しい発想を持った人と巡り会い、人が持たない物、他にはできないものを作っていき、見聞を広め下請けからの脱却を図っていきたいと思っています。

これからは、量産の仕事ではなく、むしろ、他社が開発する新製品の試作製造工場のように、難しい仕事をこなしていきたいと考えています。そうして、当社の看板、技術をアピールして九州No.1を目指していきたいです。

ＹＡＧレーザーで加工した魚

工場内



循環式冷却装置

植木社長とシステム担当 剛彦氏

＜会社概要＞

（所在地）〒811-3134福岡県古賀市青柳194番地
（ＴＥＬ）092-944-4755
（ＦＡＸ）092-944-4756
（商　号）株式会社ナダヨシ
（営業種目）ステンレス、チタン、アルミ、鉄、板金加工一式
超音波洗浄乾燥装置一式　蒸留装置一式
厨房機具・医療機器・装飾金物
学校及び病院関係の大型手洗シンク
自動車パーツ部品　他

<取材担当：林　高英>
日新産工(株)

工業会からのお知らせ

平成１9年度工場視察研修会　開催される！

平成19年度当工業会の目玉行事のひとつである工場視察研修会が今年5月18日(金)から19日(土)までの2日間の日程で開催されました。

今回の研修旅行は、日本の中小企業のメッカ東大阪地区の先進企業を見学させていただくとともに会員相互の親睦を深めることを目的に経営部会により企画されたものでした。

(株)タナカ･ファクトリー様 工場内
(http://www.tanakaf.co.jp)

田中電工(株)金属部様玄関にて
(http://www.tei-tanaka.co.jp)

参加者は、長澤会長(ナサ工業(株))を団長として21社総勢31名。

東大阪市の精密板金加工会社「(株)タナカ･ファクトリー」様と門真市の大手電機メーカー関連の試作･量産工場である「田中電工(株)」様の2社を訪問させていただきました。

世界最強の東大阪地区でもまれている会社のオーラに圧倒されながらも、世代交代を進めながら先進の技術をつかみとろうという意欲と緊張感を肌で感じることができ、有意義な研修旅行を送ることができました。

参加者の皆様本当にお疲れ様でした。また、他の会員の皆様も来年度は是非ご参加お願いいたします。

<記事担当:田名部　徹朗> (株)三松

パワーアップ研修会

(実施日) 平成19年6月15日(金)～16日(土)
参加者:１０社１７名

(会　場) 大栄大宰府研修センター
太宰府市御笠１丁目５－１５

(講　師) ムゲン(MGEIN)経営研究所代表
中小企業診断士　田中 義二氏

(内　容)【会社の現状･今を変える】
現場の生産性向上による会社への貢献と自己成長

受講生の皆さん

研修風景

今回のパワーアップ研修会は、福岡県シートメタル工業会として昨年のリーダー研修会に引き続き現地にて実施致しました。

テーマとして「現場の生産性向上による会社への貢献と自己成長」で、中小企業を取り巻く経営環境が、依然として厳しい中、QCDを高め顧客満足度を向上することにより、営業支援をすると共に、生産性向上によりコストを圧縮し、利益を出すことに期待がかかります。

この研修では、ムダに気付き、リーダーシップを発揮し、現場での改善を図る動機付けと、改善の具体的な方法を習得して頂きました。

受講生は20代(3名)･30代(6名)･40代(6名)･50代(2名)と幅広い年齢層の方々の参加ではありましたが、時間の経過とともにグループ内では年齢を越えた熱のこもった討議も見受けられました。

又、研修会終了後に改めて名刺交換をされている方々もお見受けし、工業会としてのコミュニケーションも図れたのではないかと思います。

“板金図面検定”合格おめでとうございます！

板金業界では初めての『板金図面検定試験』が平成19年6月23日に実施され、下記の19名(2級13名･3級6名)の方が、検定前講習や受検者の努力の成果があって難関を突破され、見事に合格されました。

板金図面検定合格者名簿

２級合格者

NO	合格年度	作　業	氏　名	事業所	資格取得番号
1	19年	板金図面	古川　栄治	株式会社 三松	2007-2-0001
2	19年	板金図面	宇戸　秀緑	株式会社 三松	2007-2-0002
3	19年	板金図面	塚本　利彦	株式会社 田名部製作所	2007-2-0003
4	19年	板金図面	小島　英二	株式会社 三松	2007-2-0004
5	19年	板金図面	亀田　秀明	株式会社 三藤製作所	2007-2-0005
6	19年	板金図面	梅本　耕一	株式会社 三松	2007-2-0006
7	19年	板金図面	下薗　義生	有限会社 鶴元製作所	2007-2-0007
8	19年	板金図面	豊福　高史	株式会社 三松	2007-2-0008
9	19年	板金図面	安田 健之臣	株式会社 西日本電器機製作所	2007-2-0009
10	19年	板金図面	佐藤　繁	株式会社 三松	2007-2-0010
11	19年	板金図面	中野　尚徳	株式会社 西日本電器機製作所	2007-2-0011
12	19年	板金図面	中村　允俊	株式会社 ヤスナガ	2007-2-0012
13	19年	板金図面	中尾　義明	株式会社 ナダヨシ	2007-2-0013

３級合格者

NO	合格年度	作　業	氏　名	事業所	資格取得番号
1	19年	板金図面	信國　智充	株式会社 三松	2007-3-0001
2	19年	板金図面	金子　文隆	株式会社 ヤスナガ	2007-3-0002
3	19年	板金図面	大塚　里美	株式会社 三松	2007-3-0003
4	19年	板金図面	内田　亮二	株式会社 田名部製作所	2007-3-0004
5	19年	板金図面	白谷　祥悟	株式会社 田名部製作所	2007-3-0005
6	19年	板金図面	待鳥　大地	株式会社 田名部製作所	2007-3-0006

板金図面【２級取得】

(株)西日本電機器製作所　安田 健之臣

実技試験は仕事と重複している内容が多かったが学科試験は実務とはかけ離れた内容でした。しかし今回の受験に当り図面を読みとる能力や鋼材などの一般知識がより深まりました。これから受験される方はこの検定を取得し能力アップを目指して頂きたいと思います。私は更に一級の受験に向けて頑張ります。

板金図面【3級取得】

(株)田名部製作所　白谷 祥悟

講習の後も時間を見つけては、学科の復習や展開の練習をしてきたことが合格に結びついたように思います。今回のことは良い経験になったばかりか、自分にとってひとつ自信にもなりました。今からもっと経験を積んで今度は２級に挑戦してみたいですね。

※上記の【板金図面検定】制度構築について、全国の工業会に配布されているアマダスクール会報誌『つくる』の9･10号工業会NEWSにおいて記事が掲載されますので、是非ご覧頂きます様御願い致します。

マイブーム ミ　焼酎党

私はお酒が大好きです。日常晩酌はしませんが、週末、友人や仕事仲間達と一緒に深酒をします。学生時代からこれまで、安上がりに酔うためによく焼酎を飲みます。しかし、最近では焼酎ブームにより銘柄によって、1本数千円から数万円で取引きされることも珍しいことではありません。

いままで米・麦・芋・その他ありましたけど現在はお店にも多くの種類の焼酎が置いてあります。珍しいものでは、ごま、昆布、栗、牛乳、ごぼう、トマト、レタスなど他にもまだいろいろあります。

焼酎のアルコールはもともとでんぷんに由来するものだそうで、でんぷんさえ含んでいれば何でも焼酎にできるそうです。定番の米や麦、そしてサツマイモの他にもにんじん、ピーマン、かぼちゃなど、野菜を使った珍しい焼酎も人気を集めています。

焼酎は（甲類）と（乙類）とに分類されます。甲類焼酎とは、連続式蒸留器によって造られる焼酎のことだそうです。明治末期にヨーロッパから導入され、俗にホワイトリカーという名でも知られています。完成時は96度もあるアルコール度数も、酒税法の制限から、出荷時には36度にまで水で薄められるため、無味無臭で、サワーのように、炭酸水や果汁で割るのに向いています。

一方、乙類焼酎とは、本格焼酎といわれ、単式蒸留器によって造られ、アルコール度数も45度以上と若干高めです。甲類焼酎と最も異なるのは、主原料の風味が酒の中に残されていることです。地域それぞれに個性豊かな味を楽しむことができるので、ストレートやお湯割りなど、素材を生かす飲み方がおすすめです。

また、本格焼酎にはさまざまな健康作用があるそうです。現在確認されている本格焼酎の薬事効果には、善玉コレステロールを増やす作用や、血栓を溶かす作用、痴呆の予防、関節痛を抑える作用などがあるようです。

飲み方にもいろいろあり、お湯割り、水割り、オンザロックなどがあります。夏は冷たいビールと思う人もいるでしょうが、俳句の世界では「焼酎」は夏の季語になっています。昔から、暑い時には冷たい水を飲むより、熱いお茶を飲んだほうが渇きが癒えるといわれていましたが、これと同じで、暑い夏こそ、お湯割りの焼酎を飲んで渇きを癒してください。

いくら健康作用があるとはいえ、飲みすぎには作用があるとは言えないでしょう。私も飲み出したらブレーキがきかずとことん飲んでしまいます。みなさんも飲みすぎには注意され、ほどよく飲んで酔って、おいしいお酒を楽しんでください。

<記事担当：野口武志>
（有）真和ステンレス工業

鉄人倶楽部⑳ 不満が言えることは素晴しい

～佐賀北高校・監督と選手達の交換日記～

歓声をあげながらスタンドの応援団にあいさつに向かう選手達

７回迄の攻防で、勝利の行方は決定的だった。誰もが、伝統校である広陵・悲願の初優勝を疑わなかった。佐賀北の百崎監督自身も、ここまでか！と覚悟したという。それもその筈。それまでの佐賀北のヒットは1本。前の回には無失点記録を続けていたエース・久保が打たれて、２点の追加点を奪われた。４対０。しかも、頼みの久保を打ち砕いたのは広陵のエース野村だったのである・・・。

「私達がしたことで、変わった事といえば、選手との交換日記ですかねえ？」優勝後のインタビューで、佐賀北高校の百崎監督は言った。５８人の部員一人一人との交換日記。瞬時に好きなメッセージを何度でも発信できる＜メル友＞の時代に、交換日記・・・どこか懐かしい響きである。「面と向かっては言えない不満を子供達が書き始めた時、チームが変わっていった」監督の采配ミスや練習メニューへの痛烈な不満も、日記には綴られている。「不満が言えることは素晴しいこと」百崎監督の大きさが、少しずつ選手達自身に浸透していった。「押さえつけても駄目。不満が出た時こそチャンス。皆が納得さえすれば、必ずチームの力になります」百崎監督は、甲子園期間中も選手達の日記を読み続けていた。「私達は特別変わった練習等はしていません。子供達と会話をしながら唯、各々が目標を持って、強いチームとの練習試合を、重ねてきただけです」唯、移動バスのハンドルは、常に監督自身が握った。これが指導者の姿なのかもしれない・・・

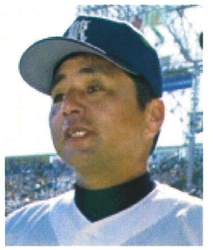
決定的な追加点を奪われて迎えた８回の攻撃。甲子園の神様がちょっとした悪戯をした。スタンドで生まれた奇跡の予兆。敗色が濃厚となった佐賀北の攻撃を告げるアナウンスが場内に流れた時、甲子園のスタンド全体が、佐賀北の反撃を期待する風に包まれたのである。私は０３年に星野阪神が優勝した年、甲子園で阪神戦を観戦したことがある。試合前の少雨。試合が中止されるかどうか？わからない状況。でも誰も帰らない。その時、マウンドのカバーが除かれ、阪神の選手が、全速力で守りに散った。試合開始。歓声が渦巻くというのは、まさにあんな状況を言うのだろう。こもった音の＜地鳴り＞がする様だった。甲子園の風が一瞬にして虎一色になった。バッターボックスに向かうヤクルトの選手が、唯々、気の毒だった。

八回裏１死１・３塁。ポーカーフェイスの広陵・野村投手が投じた一球。スライダーが低めにコントロールされた。私には明らかにストライクに見えた・・・が、審判のコールは、無情にもボール。スタンドの雰囲気が審判の手を止めたように思えた。野村投手の顔が初めて歪む。この一球が奇跡の逆転本塁打の布石になった。高めに浮いた同じスライダー。見逃さずに振り抜いた3番副島、快心の一撃だった。「昨夏は県大会一回戦負け。春は二回戦敗退。どうしたら良いのかわからず、自分も最悪だった。技術練習ばかりの練習では駄目だと、監督への日記に書いた。」伝説の打者になった副島の言葉である。

特待生制度で揺れた今年の高校野球。その中で佐賀北の逆転優勝は、実に爽やかだった。国立大の進学組が８０名を超す県立普通校。定期試験前は１週間、練習は停止される。大半の生徒が自転車通学で田園地帯を駆け抜ける。「校風はのんびりって感じかなあ」北高ＯＢは語る。野球部には、校区外通学者もリトルリーグ経験者もいなかった。まさに普通の子達が成し遂げた快挙。誰もがきっと考えるに違いない。ノーマークだった佐賀北が、どうしてここまで強くなったのか？殺到するマスコミの質問に対して、市丸主将は困りながらも、いつか日記に書いた一節を、思い出した。「唯、私達は強いと言われる私立の強豪に勝ちたかった」と。笑った顔の素朴さが印象的だった。

５８人の選手達と監督との交換日記。読むだけで１時間半もかかるという、この手書きの記録には、普通の子供達が一歩一歩成長し、大変身を遂げていく姿が克明に記されているに違いない。そして青春時代の足跡として、そんなに貴重なものもあるまい。「不満をいえることは、素晴しいこと。」選手達が百崎監督に教わったことは余りに大きい気がする。

・・・ふと・・・私は・・・私達の会社の業務日誌を今一度、見てみようと思った。＜記録＞は歴史になり、又、歴史を造るもの・・そう言ったのは一体、誰だっただろうか？



■プロフィール■

百崎敏克 監督

佐賀生まれ。
佐賀北高、国学院大文学部卒。
佐賀北高時代は外野手主将で夏の佐賀大会がベスト４。
国語教師。佐賀農芸高（現高志館高）を皮切りに神崎などで野球部監督。
04年から佐賀北勤務。

＜取材・大和 啓介＞
三和金属（株）